

Title	佐志傳君著作目録
Sub Title	List of writings of Sashi Tsutae
Author	山内, 慶太(Yamauchi, Keita)
Publisher	慶應義塾福沢研究センター
Publication year	2022
Jtitle	近代日本研究 (Journal of modern Japanese studies). Vol.38, (2021.), p.261- 278
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	資料紹介
Genre	Departmental Bulletin Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN10005325-20210000-0261

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

佐志傳君著作目録

山内慶太

福沢研究センター設立時からの所員であった佐志傳先生が、令和二年八月五日、八十九歳で逝去された。

佐志先生は、本塾大学文学部史学科に学び、昭和三十年三月に大学院文学研究科を修了した。専門は古代史で宇佐八幡や八幡信仰を研究していたが、丁度慶應義塾では百年史の編纂事業がはじまっており、塾史編纂所の所長間崎萬里氏の勧めで、これに携わることになった。即ち、三十年四月、塾史編纂所事務員、三十五年、同専任所員となり、十年間、『慶應義塾百年史』の編纂に専念した。百年史の編纂が一段落した四十年四月に、本塾高等学校の教諭となり、平成八年三月、定年退職まで三十一年間、同校で日本史を講じた。

この間、塾史編纂所は百年史編纂の使命を終えて、四十四年に塾史資料室となっていたが、五十八年慶應義塾創立百二十五年に際して福沢研究センターに改組される。その福沢研究センターにおいても、昭和五十九年から定年退職まで所員を兼務し、平成二年から退職まで運営委員でもあった。そして定年後も、健康上の理由

で辞退される平成二十八年三月末まで顧問を務めた。

佐志先生の主な業績を挙げると、通史や資料集の編纂としては、『慶應義塾百年史』、『交詢社百年史』、『マイクロフィルム版福沢関係文書 福沢諭吉と慶應義塾』がある。『慶應義塾百年史』の編纂においては、専任所員は会田倉吉氏と佐志先生の二人のみで（註 会田氏は三十五年に昆野和七氏より引き継いだ）、しかも最若手であったので、その経験は、後の福沢研究センターの活動においても貴重なものであった。百年史編纂の経験とその後の研究の成果が活かされたのが『マイクロフィルム版福沢関係文書』で、約十年間に及び関係史料を、収集、整理、分類し、更に解説を付けた史料集成を構築した。ちなみに、平成七年には、『福沢関係文書』の編纂ならびに関連業績」で義塾賞を授与された。

百年史と同時期に進められたもう一つの大きな事業が富田正文氏による『福沢諭吉全集』の編集である。別巻を加えた再版の刊行を終えた後、昭和四十七年から、中山一義氏の提案で富田氏を中心に福沢全集の編纂者、百年史の編纂者が集まって継続して開かれたのが「福翁自傳を読む会」で、平成十二年まで通算一三九回続いた。その間、参加者の出入りはあったが佐志先生は初回から最後までメンバーでもあった。つまり、先生は、百年史編纂以降の塾史研究と、富田氏を中心とした福沢研究との両方に精通する貴重な人でもあった。退職後の大仕事となった、河北展生氏との『福翁自傳』の研究（慶應義塾大学出版会）は、この「福翁自傳を読む会」の蓄積の成果が結実したものであった。

なお、佐志先生は、筆が走ることを戒め、緻密な論証を大切にする人であった。そして、私淑した富田正文氏の『考証福沢諭吉』（岩波書店）の出版に当たっては、原稿の仔細な点検等を協力し、前述の『福翁自傳』の研究』では主に河北氏が担当した注釈編も詳細な点検を手伝ったことは、業績一覧ではわからない功績であ

る。

百年史等の編纂に通底する佐志先生の姿勢を示唆するものに、交詢社百年史出版記念常例午餐会での講演がある。この中で、交詢社には一般に知られている印象とは違う性格があったことを指摘して、「それは、交詢社が積極的に社史を編纂して表に出していないからであろうと考えまして、できるだけ正しい事実を一般に公表することが大事ではないかと考えました。そのためには、今日分かつている材料をいわば復刻するような形で、なるべく多くの材料を引用しながら資料そのものに語ってもらった方が、私のつたない考えで書くよりもいいのではないかと思ひまして、資料をなるべくそのままの形で出すように努めました。そのことが結局後世の方にも利用価値があるのではないか、また、大きく言えば、歴史の研究などなされる学者のために正しい材料を提供することが、この百年史の務めではないかと思ひました。」と語っている。この、広く後世の研究者の為にとという考えは、『マイクロフィルム版福沢関係文書』の編纂過程を講演した福沢論吉協会土曜セミナーでの「もちろん一番大きい目的は資料を公開するということにあります。これは慶應だけが資料を握って小出しに何か研究するというんではアンフェアですから、持っているすべての資料を公開しなければならぬという、そういう考え方なのです。」という発言ともつながるものであろう。

以下の著作目録には、佐志先生により執筆されたものを把握し得た限り全て網羅した。近年は、査読付きの論文を重視する傾向が益々強まっているが、その人がどのように歴史を見ていたか、そしてどのように語っていたか、ということはそれのみではわからない。その他の講演録、随筆等も通読してはじめてわかることも多いことから、あらゆる著作を網羅して示す意味は大きいのではないかと考えた次第である。実は、筆者は、佐志先生が定年退職の時に、先生の業績一覧をまとめることを申し出たことがあった。その時に先生から頂いて

いたリストを基にして、更にその後の業績を調査し加えたものである。「論文」、「書評・紹介」、「研究発表・報告」、「講演」、「随筆」はその時の先生のリストに付された種類で、それをそのまま踏襲することにした。

最後に、本業績に表れない先生の功績を二点記しておきたい。

第一に、義塾一貫教育の中での貢献である。高等学校では佐志先生の日本史の授業で触発された人は少なくないが、加えて福沢研究会を主宰したことである。その学恩を受けた者で、塾内外で教職に在る者も少なくない。また、幼稚舎、普通部、中等部等各校の求めに応じて福沢先生や塾史に因む講演をしばしば行った。以下の業績に掲載した「講演録」はその一部であり、それ以外の講演についても録音等からの活字化がなされれば、後進教職員にとっても若き塾生にとっても有益であろう。

第二に、高等学校に異動してからの塾史研究への貢献である。塾史編纂所は、百年史編纂が終了して塾史資料室となり、会田倉吉氏が昭和五十一年、在職中に急逝して以降は、専任者がいない形になっていた。福沢研究センターに専任所員が置けるようになるまでに約三十年を要した。この期間がなければとの憾みはあるが、その期間が空白にならなかったのは、当時の兼任所員の尽力によるもので、なかでも佐志先生が高等学校での多忙な本務の一方で、会田氏の遺志を引き継ぎ、精力的に塾史研究を継続したことは特筆すべきであろう。

佐志傳君著作目録

【編纂】

『慶應義塾百年史』慶應義塾

上巻（昭和三三年一月）、中巻（前）（昭和三五年二月）、中巻（後）（昭和三九年一月）、下巻（昭和四三年十二月）、別巻（大学編）（昭和三七年八月）

塾史編纂所の中に設けられた小委員会が編纂の実際の作業を担当した。小委員会は所長 間崎万里、今宮 新のほか、富田正文、中山一義、昆野和七、会田倉吉、手塚豊、河北展生、佐志傳、武田勝蔵。

また、別巻（大学編）のうち文学部の編集担当者は、松本芳夫、中山一義、会田倉吉、河北展生、佐志傳で、このうち「五 学会・機関誌」一四一―二〇〇頁を佐志が執筆。

『交詢社百年史』交詢社、昭和五八年一月

交詢社に設けられた社史編纂委員会において、昆野義平と佐志傳が分担執筆した。佐志の分担部分は、関東大震災以前の第一編―第三編第二章と、第四編第五章、第六編第五章、第七編、追記。

後記七一九―七二三頁は佐志傳が署名執筆。

『マイクロフィルム版福沢関係文書 福沢諭吉と慶應義塾』雄松堂フィルム出版

マイクロフィルム全二四〇リールの制作と共に、各収録資料の一覧に説明を附した以下の冊子を発行。

編集は福沢研究センターで、佐志傳が担当した。

「マイクロフィルム版福沢関係文書収録文書目録（第一分冊）慶應義塾関係資料（一）」、平成元年三月
「マイクロフィルム版福沢関係文書収録文書目録（第二分冊）福沢諭吉関係資料（一）」、平成三年七月
（平成一〇年一月改訂再版）

「マイクロフィルム版福沢関係文書収録文書目録（第三分冊）慶應義塾関係資料（二）」、平成三年一〇月
「マイクロフィルム版福沢関係文書収録文書目録（第四分冊）福沢諭吉関係資料（二）」、平成七年三月
「マイクロフィルム版福沢関係文書収録文書目録（第五分冊）慶應義塾関係資料（三）」、平成七年五月
「マイクロフィルム版福沢関係文書収録文書目録（第六分冊）慶應義塾関係資料（四）」、平成九年三月
「マイクロフィルム版福沢関係文書収録文書目録（第七分冊）福沢諭吉関係資料（三）」、平成九年一二月
「マイクロフィルム版福沢関係文書収録文書目録（第八分冊）慶應義塾関係資料（五）」、平成一〇年一月

【校訂解題】

「長尾幸作著『軍行日記 鴻目魁耳』『軍行記録』校訂並解題」、『万延元年遣米使節史料集成第四卷』風間書房、昭和三十六年四月、四二一―四二〇頁

「ジョン・M・ブルック著『横浜日記・咸臨丸日記』解題」、『万延元年遣米使節史料集成第五卷』風間書房、昭和三十六年八月、一六七―一八九頁

「解説二『塾員』の朱印について」、『慶應義塾入社帳 第一巻』慶應義塾、昭和六一年三月、七五五―七六二頁
『慶應義塾福沢研究センター資料（2）』慶應義塾社中之約束」、昭和六一年八月

「『慶應義塾社中之約束』解題」、iii―x頁

『慶應義塾社中之約束』解説、二二二—二七三頁を収める。

【編集】

『慶應義塾一二五年』慶應義塾、昭和五八年五月一日

編者は『慶應義塾一二五年』編集委員会、編集委員長は河北展生、編集委員は佐志傳、田中正之、多田建次、高木不二、土橋俊一、中井芳雄、西川俊作、丸山信。

『生誕一五〇年記念福沢諭吉展 黒船来航から独立自尊まで』慶應義塾、昭和五九年十月

編集は福沢諭吉展委員会、第一部会委員に佐志傳も加わる。

『第三部 日本の近代化と福沢諭吉』、五九頁は佐志傳が署名執筆。

【著書】

『六 文化関係文書 私学教育』、『日本古文書学講座一〇〈近代編Ⅱ〉』雄山閣、昭和五五年七月、二〇三—二一五頁

『慶應義塾統々豆百科 福沢記念選書四七』、平成三年六月

慶應義塾大学の学生保護者を対象とした『塾』に二九回にわたり書き継いだコラム「豆百科」(73〜78)、「統々豆百科」(1〜23)をまとめたもの。なお、連載の筆名「駸」は父の名駸次郎の一字。元の連載は以下の通り。

『豆百科 (73) 体育会の創設』、『塾』第一三六号、昭和六一年四月、三六頁

- 「豆百科 (74) 『道聴途説』」、「塾」第一三七号、昭和六一年六月、三六頁
- 「豆百科 (75) 交詢社」、「塾」第一三八号、昭和六一年八月、三六頁
- 「豆百科 (76) 『慶應義塾入社帳』の刊行」、「塾」第一三九号、昭和六一年一〇月、三六頁
- 「豆百科 (77) 『義塾』という名のおこり」、「塾」第一四〇号、昭和六一年一二月、三六頁
- 「豆百科 (78) 普通部」、「塾」第一四一号、昭和六二年二月、三六頁
- 「続々豆百科 (1) 環境保全のさきがけ」、「塾」第一四二号、昭和六二年四月、三六頁
- 「続々豆百科 (2) 獣医畜産専門学校」、「塾」第一四三号、昭和六二年六月、三六頁
- 「続々豆百科 (3) 社頭」、「塾」第一四四号、昭和六二年八月、三六頁
- 「続々豆百科 (4) 演説の創始」、「塾」第一四五号、昭和六二年一〇月、三六頁
- 「続々豆百科 (5) 留学生受け入れのはじめ」、「塾」第一四六号、昭和六二年一二月、三六頁
- 「続々豆百科 (6) 慶應義塾と歯科医学」、「塾」第一四七号、昭和六三年二月、三六頁
- 「続々豆百科 (7) 『独立自尊迎新世紀』」、「塾」第一四八号、昭和六三年四月、三六頁
- 「続々豆百科 (8) 『入塾ノ人ニ告文』」、「塾」第一四九号、昭和六三年六月、三六頁
- 「続々豆百科 (9) 消費組合」、「塾」第一五〇号、昭和六三年八月、三六頁
- 「続々豆百科 (10) 自我作古」、「塾」第一五一号、昭和六三年一〇月、三六頁
- 「続々豆百科 (11) 国宝・秋草文壺」、「塾」第一五二号、昭和六三年一二月、三六頁
- 「続々豆百科 (12) 学生ホール」、「塾」第一五三号、平成元年二月、三六頁
- 「続々豆百科 (13) 公孫樹」、「塾」第一五四号、平成元年四月、三六頁

- 「続々豆百科 (14) 日吉台の地下壕」、「塾」第一五五号、平成元年六月、三六頁
- 「続々豆百科 (15) 学業勤惰表」、「塾」第一五六号、平成元年八月、三六頁
- 「続々豆百科 (16) 稲荷山」、「塾」第一五七号、平成元年一〇月、三六頁
- 「続々豆百科 (17) カンテラ行列」、「塾」第一五八号、平成元年一二月、三六頁
- 「続々豆百科 (18) 半学半教」、「塾」第一五九号、平成二年二月、三六頁
- 「続々豆百科 (19) 慶應義塾教育の本旨」、「塾」第一六〇号、平成二年四月、三六頁
- 「続々豆百科 (20) 『福沢関係文書』の刊行」、「塾」第一六一号、平成二年六月、三六頁
- 「続々豆百科 (21) 旧居と宅跡」、「塾」第一六二号、平成二年八月、三六頁
- 「続々豆百科 (22) 大学部開設百年」、「塾」第一六三号、平成二年一〇月、三六頁
- 「続々豆百科 (23) 『塾員』の認定」、「塾」第一六四号、平成二年一二月、三六頁
- 『慶應義塾豆百科』慶應義塾、平成八年三月、会田倉吉・土橋俊一・佐志傳
- 会田倉吉、土橋俊一、佐志傳によって書き継がれた『塾』の連載を一冊にまとめたもの。巻末には、佐志による「慶應義塾続々豆百科」あとがき(一九七―一九八頁)、「合本『慶應義塾豆百科』追記」(一九九―二〇〇頁)もある。
- 『福翁自傳』の研究(本文編・注釈編)、慶應義塾大学出版会、平成一八年六月
- 主に、註釈編を河北展生、本文編を佐志傳が担当し、本文編には佐志による解題 (I xviii)、後記 (二九五―三〇五頁) を収める。

【論文】

「八幡信仰の起源について」、『史学』第三〇卷第二号、昭和三十一年一月、七一—一三三頁

「宇佐八幡宮の祠官について」、『史学』第三二卷第一・二・三・四号（慶應義塾創立百年記念号）、昭和三十三年

一〇月二五日、一六八—一九二頁

「八幡肥後出現説」、『神道学』第二七号、昭和三十五年二月、一一—一頁

「咸臨丸搭乗者長尾幸作の生涯」、『史学』第三六卷第二・三号（松本芳夫先生古希記念号）、昭和三十八年九月、

七七—一九二頁

「徂徠と諭吉」、『慶應義塾高等学校紀要』第一号、昭和四四年二月、一一—八頁

「福沢諭吉の宗教観」、『史学』第四三卷第一・二号（今宮新先生古希記念号）、昭和四五年五月、三五—一三七〇頁

「『文明論之概略』研究（上）」、『史学』第四七卷第一・二号、昭和五〇年二月、三五—一六四頁

「『文明論之概略』研究（中）」、『史学』第四七卷第三号、昭和五一年四月、二七—一四三頁

「『文明論之概略』研究（下）」、『史学』第四七卷第四号、昭和五一年七月、一一—二二頁

「交詢社設立前史」、『史学』第五〇卷（第五〇卷記念号）、昭和五五年二月、一一三—一五三頁

「会社、同社そして社中」、『近代日本研究』第一卷、昭和六〇年三月、三三—一七〇頁

「『交詢雑誌』の変遷」、『史学』第五七卷第四号、昭和六三年三月、一一—一九頁

「福沢諭吉の教育論（一）」、『慶應義塾高等学校紀要』第二二号、平成三年二月、二二—一三六頁

「福沢諭吉の教育論（二）」、『慶應義塾高等学校紀要』第二六号、平成七年一月、五一—一八頁

【書評・紹介】

- 「八幡宮の研究（宮地直一著、理想社刊）」、『史学』第三〇巻第一号、昭和三二年七月、一二七―一三二頁
- 「慶應義塾百年史中巻（後）刊行 中堅塾員の同時代史」、『三田評論』第六三四号、昭和四〇年一月、一〇一頁
- 「吉田小五郎先生と『幼稚舎の歴史』」、『仔馬』第三六巻第四号 通巻二二四号、昭和五九年十二月、九六―九七頁
- 「渡辺徳三郎著『福沢諭吉・家庭教育のすすめ』」、『慶應義塾幼稚舎同窓会報』第一三八号、昭和六〇年六月
- 「『福沢先生百話』完結によせて」、『幼稚舎新聞』第一二五四号、昭和六三年一〇月一九日、四頁
- 「絵巻書だから伝えられる幼稚舎の百二十年——『慶應義塾幼稚舎百二十年のあゆみ』——」、『三田評論』第九六七号、平成六年三月、八二―八三頁

【発表・報告】

- 「福沢諭吉に関する常識——慶應高校福沢先生研究会の調査報告——」、『福沢手帖』第三号、昭和四九年七月、一九―二二頁
- 「中津長崎資料採訪報告」、『福沢手帖』第一七号、昭和五三年六月、一―六頁、河北展生・佐志傳・丸山信
- 「ドロップアウトと武田勇二郎——新資料・武田宛福沢書簡・紹介——」、『福沢手帖』第三〇号、昭和五六年一〇月、八―一二頁
- 「日清戦争後の朝鮮政情・他——新資料・竹越与三郎宛福沢諭吉書簡三通——」、『福沢手帖』第三二号、昭和五七年三月、一―九頁
- 「福沢と旧藩主との交遊（新資料紹介）」、『福沢手帖』第四二号、昭和五九年九月、一―八頁

「——新しい資料みつかる—— 福沢先生の訓辞の下書き」、『幼稚園新聞』第一二二三号、昭和六年一月八日、二頁

「福沢関係文書」（マイクロフィルム版）の刊行と全集未収録の若干の資料」、『福沢手帖』第五九号、昭和六年二月二〇日、一—二二頁

「資料 福沢最古の訳稿『経始概畧』等について——一九八八—九九年の寄贈資料紹介——」、『近代日本研究』第六卷、平成二年三月、二二三—三〇二頁

「執筆メモ見つかる——『文明論之概略』『学問のすゝめ』——」、『三田評論』第九二八号、平成三年八月、七四—七九頁

「身ぐるみはいで何貫目？——新資料紹介 福沢先生の体重記録——」、『福沢手帖』第八〇号、平成六年三月、一一—一五頁

「福沢家の家計と交詢社会計の新資料」、『近代日本研究』第一二卷、平成八年三月、二六五—二七〇頁

「若き卒業生と家族ぐるみの交遊——長野にのこる二通の福沢書簡——」、『福沢手帖』第九九号、平成一〇年二月、二六—三二頁

「三枝氏の寄贈された交詢社社則について」、『交詢雑誌』復刊第四四三号、平成一三年九月、三九—四二頁

【講演録】

「赤穂浪士と福沢先生 昭和五二年二月三日 福沢先生御命日記念講演」、『仔馬』第二八卷第一号 通卷一六三号、昭和五一年六月、六五—七二頁

この講演の予告記事が『幼稚園新聞』第七四六号（昭和五一年一月二八日）にある。

「交詢社百年史の概略」、『交詢雑誌』復刊第二五一号、昭和五九年二月、六一―三頁

昭和五二年二月二三日開催の交詢社百年史出版記念常例午餐会での講演

「マイクロフィルム版 福沢関係文書について」、『福沢諭吉年鑑』第一八号、平成三年十二月、一〇二―一二七頁

「記念講演『福沢と教育』」、『三田教育会報』第一六号、平成八年六月、一―五頁

「福沢先生と銀座」、『交詢雑誌』復刊第四〇六号、平成一〇年四月、二一―一〇頁

「福沢先生のめぐりあわせ 慶應義塾幼稚園 福沢先生御命日講話」、『仔馬』第五三巻第一号 通巻二八八号、平成一三年七月、九二―一〇三頁

この講演を聴いた幼稚園生の感想が『幼稚園新聞』第一六三八号（平成一三年二月一三日）に掲載されている。

「福沢諭吉が残した慶應義塾 〈創立一五〇年を前に〉 講演録 第六八三回三田演説会」、『三田評論』第一〇

九六号、平成一八年十二月、四三―五〇頁

本講演の写真が『三田評論』の巻頭グラビア (KEIO Photo Report 第六八三回三田演説会) に掲載されている。

【随筆等】

「六〇〇冊の顔 六〇〇号記念特集」、『三田評論』第六〇〇号、昭和三六年十二月、五六―五九頁

- 「創作のページ 二篇のレポートを選ぶにあたって」、『中等部・一九六三年』、昭和三八年三月、一六四頁
- 「海外にある福沢先生の写真」、『三田評論』第六三六号、昭和四〇年三月、七〇―七一頁
- 「三田演説会のこと 随想〈政治と言論〉」、『三田評論』第六四〇号、昭和四〇年八月、四一―四三頁
- 「十七歳の倫理と思考——「修身要領」と慶應高校生——」、『三田評論』第六六六号、昭和四二年二月、九四―九七頁
- 「福沢諭吉と漢学 福沢諭吉の諸領域 二〇」、『三色旗』第二八四号、昭和四六年一月、二二―二五頁
- 「“実学”を徹底させた福沢精神」、『流動』第八卷第九号、昭和五一年九月、六四―七四頁
- 「交詢社百年の軌跡」、『三田評論』第八〇二号、昭和五五年四月、四六―五三頁
- 「交詢雑誌」、『塾』第一〇〇号、昭和五五年四月、裏表紙の裏
- 「心のふるさと 慶應義塾（一）——プロローグ——」、『塾友』第二七七号、昭和五五年四月、四六―四七頁
- 「心のふるさと 慶應義塾（二）——古川正雄——」、『塾友』第二七八号、昭和五五年六月、五三―五五頁
- 「福沢先生交友録（一）」、『塾友』第二九八号、昭和五七年五月、三四―三六頁
- 「福沢先生交友録（二）」、『親友』とよばれた友人たち その一、『塾友』第二九九号、昭和五七年七月、二二―二四頁
- 「福沢先生交友録（三）」、『親友』とよばれた友人たち その二、『塾友』第三〇〇号、昭和五七年八月、二〇―二二頁
- 「福沢先生交友録（四）」、『親友』とよばれた友人たち その三、『塾友』第三〇一号、昭和五七年九月、一八―二二頁

- 「三田山上にもつと響きを」、『三田評論』第八六六号、昭和六一年一月、五四頁
- 「塾員」の認定（福沢研究余録）、『慶應義塾大学報』、第一七二号、昭和六二年六月、一二頁
- 「マイクロフィルム版『福沢関係文書』の発刊」、『三田評論』第八九六号、昭和六三年一〇月、八八―九〇頁
- 「福沢研究のはなし（一）」、「福沢手帖」第六二号、平成一年九月、二四―三三頁、富田正文・（聴く人） 佐志傳
- 「福沢研究のはなし（二）」、「福沢手帖」第六三号、平成一年二月、九―一九頁、富田正文・（聴く人） 佐志傳
- 「ヨーロッパの教育事情視察団に参加して」、『慶應義塾高等学校紀要』第二〇号、平成二年一月、1―10頁
- 「岩手と福沢諭吉・慶應義塾」、『月刊街もりおか』第三〇一号、平成五年一月、二〇―二二頁
- 「精緻にして平明、内に気概あり——追悼 富田正文——」、『福沢手帖』第七九号、平成五年二月、三〇―三三頁
- 「福沢諭吉長女の名前と生年月日（夏冬生）」、「福沢手帖」第八一号、平成六年六月、五―七頁
- 「福沢諭吉、その芸術的環境」、『福沢手帖』第八三号、平成六年一二月、一―九頁
- 「百、百二十そして百二十五へ」、『幼稚舎シンフォニー』第五号、平成七年三月、一五―二四頁
- 「福沢先生と交詢社」、『三田評論』第九八〇号、平成八年五月、九四―九六頁
- 「草創期の交詢社・『交詢雑誌』」、『福沢諭吉書簡集月報5（第五卷）』、平成二三年一〇月、八―一一頁
- 「慶應義塾豆百科の誕生 社中交歓 豆」、『三田評論』第一〇五四号、平成一五年二月、一〇〇頁
- 「福沢諭吉の多面性」、『善隣』第五七五号、平成一五年二月、一―九頁
- 「交詢社の歴史——交詢雑誌の変遷」、『交詢雑誌』復刊第四七四号、平成一六年六月、一―二頁
- 「福沢先生と交詢社 小特集：交詢社新社屋落成」、『三田評論』第一〇七三号、平成一六年二月、七―一七頁

「木村芥舟・長尾幸作——咸臨丸の人々 書簡に見る福沢人物誌 第一四回」、『三田評論』第一〇八〇号、平成一七年六月、五二―五八頁

「『福翁自伝』の研究について」、『福沢手帖』第一三二号、平成一八年二月、一―七頁（河北展生・佐志傳の共著）

「慶應義塾の歴史一五〇年を四半世紀で刻んでみると 特集・学塾の歩みを記録する」、『三田評論』第一一七号、平成二〇年十一月、四〇―四四頁

【その他】

佐志傳が創立し、会長を務めた慶應義塾高等学校福沢研究会の会誌『雪池』に以下がある。

「発刊にあたって」、『雪池』創刊号、昭和四二年三月、一―二頁

「修身要領」と慶應高校生」、『雪池』第二号、昭和四三年四月、一―五頁

「ことしの福研」、『雪池』第三号、昭和四六年三月、二―三頁

「文明論之概略」と西洋思想」、『雪池』第三号、昭和四六年三月、四―六頁

「雪池」第四号の発行にあたって」、『雪池』第四号、昭和五四年三月、一頁

「福研一三年の歩み」、『雪池』第四号、昭和五四年三月、一七―二〇頁

「交詢社の創立百年（一九八〇年二月一三日記）」、『雪池』第五号、昭和五五年三月、一―二頁

「最近五年間の福研」、『雪池』第六号、昭和六〇年三月、四―五頁

「福沢先生と福沢諭吉」、『雪池』第六号、昭和六〇年三月、九―一〇頁

〔福研二二年〕、『雪池』第七号、昭和六二年三月、一一八頁

〔昭和六二年度の福研〕、『雪池』第八号、昭和六三年三月、一一三頁

慶應義塾高等学校紀要に以下の社会科部会『文明論之概略』読書会報告（編集・松浦正夫）がある。佐志傳による緒言から第三章、第一〇章の報告概要がそれぞれ第五号と第六号に掲載されている。また、いずれも座談会の記録があり、発言も収録されている。

〔『文明論之概略』読書会〕、『慶應義塾高等学校紀要』第五号、昭和四九年七月、二四―三一頁

〔『文明論之概略』読書会〕、『慶應義塾高等学校紀要』第六号、昭和五〇年六月、二九―三七頁

慶應義塾高等学校の周年記念誌に以下がある。

〔文化系クラブの姿〕福沢研究会、『二十年 慶應義塾高等学校二十周年記念誌』、昭和四四年三月、一三〇―一三二頁

〔慶應高校生に期待するもの アンケートⅡ 三〇年―三〇〇人のことば〕、『三十年 慶應義塾高等学校三十年記念誌』、昭和五四年三月、一一八頁

〔部会報告 社会科部会〕、『三十年 慶應義塾高等学校三十年記念誌』、昭和五四年三月、一二五―一三四頁

〔文科系クラブ クラブ活動〕福沢研究会、『三十年 慶應義塾高等学校三十年記念誌』、昭和五四年三月、一八七頁

〔福沢研究会〕、『五十年 慶應義塾高等学校』、平成一〇年十一月、一八九頁

【追悼】

大久保忠宗「佐志傳先生を憶う」、『三田評論』第一二五〇号、令和二年二月、一〇九頁
山内慶太「佐志傳先生を偲ぶ」、『福沢手帖』第一九一号、令和三年二月、三〇―三二頁
慶應義塾高等学校福沢研究会会誌『雪池』第一〇号、令和三年三月に「追悼 佐志傳先生」がある。内容は以下の通り。

佐志傳「佐志傳先生遺稿『条約十二国記』偽版取締りと初版本の発見」、九八―一〇二頁
古田幹「佐志先生への感謝」、一〇三―一〇四頁

高木不二「社会科教員としての佐志先生の思い出」、一〇四―一〇六頁

江口芳夫「佐志さんと『テニス』」、一〇六―一〇九頁

西澤直子「佐志傳先生の思い出」、一〇―一一頁

山根秋乃「佐志先生と」、一一―一三頁

佐藤滋一「佐志先生を偲んで」、一二―一五頁

大久保忠宗「佐志傳先生と私たち」、一五―二二頁

山内慶太「佐志先生から学んだこと」、二三―二六頁

馬場国博「佐志先生との思い出」、二六―二八頁

柳井雅「福沢研究会と佐志傳先生の思い出」、二八―三〇頁

藤井まなみ「佐志先生のこと、そして女子高福研のこと（付・昭和六一年度一般教養科目「歴史」ノート要旨）」、一三〇―一四〇頁